

CASBEE-建築(新築)2014年版
 京教法人大本 天恩部信徒会館

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境						2.6
1 音環境		3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 騒音		複層ガラスや障子・カーテン等、又境界から距離を取ることで低減				
1.2 遮音		3.0	0.40	2.1	0.40	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境		2.0	0.35	2.0	1.00	
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境		2.5	0.25	2.8	1.00	
3.1 屋光利用		4.2	0.30	4.2	0.30	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.30	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		1.0	0.25	1.0	0.25	
4 空気質環境		3.3	0.25	3.1	1.00	
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63	
4.2 換気		1.0	0.30	1.6	0.38	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
Q2 サービス性能						2.7
1 機能性		2.5	0.40	1.9	1.00	2.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	1.5	0.60	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	
2.1 耐震・免震		3.0	0.80	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2.3 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性			3.4	0.20				
1	空調・換気設備	重要度に応じた換気系統の区分。部分被害による全機能停止の防止	4.0	0.20				
2	給排水・衛生設備	節水型器具。配管系統の区分。受水槽、高架水槽はそれぞれ2基に	4.0	0.20				
3	電気設備		3.0	0.20				
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20				
5	通信・情報設備		3.0	0.20				
3 対応性・更新性			3.2	0.30	3.1	1.00	3.1	
3.1 空間のゆとり					3.2	0.50		
1	階高のゆとり	階高3.84m			4.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ				2.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50		
3.3 設備の更新性			3.2	1.00				
1	空調配管の更新性		3.0	0.20				
2	給排水管の更新性		3.0	0.20				
3	電気配線の更新性		3.0	0.10				
4	通信配線の更新性		3.0	0.10				
5	設備機器の更新性	更新に対応した仮設スペースの確保、かつ更新・修繕時の機能維持	4.0	0.20				
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20				
Q3 敷外環境(敷地内)				0.30				2.8
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30				3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50				
3.2	敷地内温暖環境の向上	緑被率・水被率・中高木面積率の計83.51%。冷却塔・室外機を地上	4.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性								3.4
LR1 エネルギー				0.40				3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm Q45	3.0	0.20				3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10				3.0
3 設備システムの高効率化		BEIpf 非住宅 0.87	4.0	0.50				4.0
	集合住宅以外の評価(3a,3b)	全熱交換器の設置。太陽光発電装置の設置	4.0	1.00				
	集合住宅の評価(3c)							
4 効率的運用			3.0	0.20				3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00				
4.1	モニタリング		3.0	0.50				
4.2	運用管理体制		3.0	0.50				
	集合住宅の評価							
4.1	モニタリング							
4.2	運用管理体制							
LR2 資源(マテリアル)				0.30				3.4
1 水資源保護			3.4	0.20				3.4
1.1	節水	節水型便器や水栓を採用	4.0	0.40				
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60				
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70				
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30				
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60				3.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10				
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20				
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20				
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	エコラックス/軒天、WC天井 Pタイル/営業事務室床	4.0	0.20				
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10				
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分離可能。内装材と設備が絡線しない。	5.0	0.20				
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20				3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30				
3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70				
	1 消火剤							
	2 発泡剤(断熱材等)	断熱材はODP=0、GWP=3以下	4.0	0.50				
	3 冷媒		3.0	0.50				
LR3 敷外環境				0.30				3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2が一般的な建物に対して73%	4.0	0.33				4.0
2 地域環境への配慮			3.1	0.33				3.1
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25				
2.2	温暖環境悪化の改善		3.0	0.50				
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.6	0.25				
	1 雨水排水負荷低減							
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.33				
	3 交通負荷抑制	駐車・駐輪スペースの確保。最寄駅から宿泊客の送迎バスの用意	5.0	0.33				
	4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33				
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33				2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40				
	1 騒音		3.0	0.50				
	2 振動		3.0	0.50				
	3 悪臭							
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40				
	1 風害の抑制		3.0	0.70				
	2 砂塵の抑制							
	3 日照阻害の抑制		3.0	0.30				
3.3 光害の抑制			2.3	0.20				
	1 屋外照明及び屋内照明の3m外に照れる光への対策		2.0	0.70				
	2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30				